

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600489		
法人名	有限会社フロンティア		
事業所名	グループホームうえつき		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2422-8		
自己評価作成日	平成26年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=3373600489-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心して暮らして頂けるように」「認知症ケアの質」「穏やかな日々」って何だろう？ 漠然とした、わかったようなわからないような言葉でなく、まず、職員が明るく、元気に、利用者と関わっていけるよう、ホームの雰囲気作りを大切に、職員がケアに迷った時一人で悩まないで全体で解決に向けて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県北の地、慣れ親しんだ中国山地が見渡せる景色の中に事業所は位置している。職員は明るく入居者に声掛けをし、回想を伴う会話にて馴染みの関係作りに努め、「第二の我が家として、自分らしい生活が出来る様支援する」の理念に沿って努めている。入居者は自分の思いで過ごし、事業所の畑に出て、野菜の世話や草取りをし、入居前の生活を楽しみ、必要に応じた柔軟な対応を受け、穏やかに生活を送っている。春とは名ばかり、遠くの山々の山頂が残雪で白く輝く頃、暖かな声が聞こえてくる事業所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し、理念に沿った行動が出来るようにしています。	玄関やリビング等、誰もが見える場所に掲示して職員の行動の規範となる様意識付けを図り、実践に繋げている。職員との会話は家庭的な雰囲気の中で昔話に花が咲き「第二の我が家」となる様支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児の慰問や、運動会の見学に出かけたりと交流が図れています。又、秋祭りには神輿の休憩場所になったりして地域に受け入れられています。	地域の保育園児・小学生との交流が行われ、秋祭りの神輿が事業所の前を練り歩く。地域の文化祭に出展した作品をプレゼントする等、地域と繋がりを持って生活出来る様努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティで開催される、地域の文化祭に作品を出品しています。実用できる作品は多目に作り、プレゼントとして見学に来た人に持ち帰って頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	26年9月より2ヶ月に1回行政、地域の老人会、民生委員、入所者の家族を交えて、ホームのありのままを見て頂きながら、会議を開催しております。活動状況を説明し、評価をいただいております。	運営推進会議を2ヶ月に1回、行政・地域の老人会・民生委員・家族等が参加し開催している。活動状況の報告をし、行政からは情報を得、要望や改善点を皆で話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの実情を伝え、相談事項に実直に対応して頂いています。	運営推進会議への参加を得、事業所の活動報告・状況報告を伝え、運営の相談をすると共に、行政から伝達を受けている。美作市や津山市から研修の案内を受け、快く参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、センサーを設置しています。言葉による行動の制限も、又、身体拘束であると認識しケアの実践を行っています。	身体拘束に関する研修を受け、職員にフィードバックして認識を強め、日々の対応に活かしている。レクリエーションや体操、アクティビティを取り入れて楽しく過ごし、不穏が無い平穏な生活を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、研修した内容をホームに持ち帰り、職員同士での確認作業としてのホーム内研修を開催しています。職員全員の共通認識として、定期的に身体拘束の研修を開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、ホーム利用者の制度利用について、知識を深めています。又、高齢者の置かれている現状の理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は必ず管理者が行い、理念に沿ったケアの方針を明記した文章のもと十分な説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に困っている事やホームへの要望を尋ねています。玄関には苦情の窓口担当者の名前を書いたポスターを大きく貼っています。	家族には苦情相談窓口をお知らせし、運営推進会議や面会時、電話等で要望を聴く機会を設け、申し出を反映させている。行事や活動時に入居者の様子や反応から思いを汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングは月に1回行い、要望や意見を聞いています。代表者と管理者は常に連絡を取り、職員からの意見を伝えています。	月毎の職員ミーティングにて、意見や要望を聴く機会を設け、提案や意見を管理者や代表者に伝えている。職員の要望や事情を考慮して勤務体制に配慮を示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者より職員の勤務状況の報告を受け、家庭と仕事の両立が出来るよう要望を聞いている。定年は設定しないで、意欲向上のある人材は大切に思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を中心にケアの質の向上の為、又、職員が介護の現場で困らないように実状に即した勉強会を実施している。自由に学べる機会が得られるよう、研修参加パンフレットを掲示板に貼り参加者を募っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の情報交換を2ヶ月に一度行っている。新しい事に挑戦しての結果等も聞かれることがあり参考になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	細やかなコミュニケーションを構築し、話しやすい環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に、家族の状況や困っている事を尋ね、ホームでの生活をどう送って欲しいか要望を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接において、ご家族、本人からプライバシーを尊重した聞き取りをして「安心」を提供し信頼を頂き、訪問看護、福祉用具等の他のサービスに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている能力を発揮してもらい、縫い物、洗濯物のたたみ、畑仕事に協力して頂いてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を細目に連絡しています。ホームに全面的に依存し家族関係が希薄にならないように、外泊、一時帰宅の支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内は同郷の馴染みが深く、利用者同士がよく関わっています。家族や、知人、友人の面会をお願いしています。	家族関係が希薄にならない様、面会の機会を促す工夫をしたり、同郷の馴染みの関係にある入居者同士が楽しく関われる様配慮を示している。正月の帰省や法事に出席出来る様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動等、皆で楽しく過ごせる環境作りを提供したり、利用者同士の相性を把握し職員間で情報を共有して関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた利用者が混乱されることのないよう必要な情報提供を行い、利用者本位の支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いをくみ取る努力をしています。意思疎通が困難な場合は相談し、最善の方法や関わりが出来るよう努めています。	日々交わされる会話を受け留め、思いや要望に繋げている。これまでの暮らし方や生活歴、家族からの情報、状態・生活環境を勘案して意向に繋げ、その人らしい生活が出来る様検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活歴を情報収集し、生活環境が、これまでの暮らしに少しでも近づけるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズム、日常の過ごし方、その日、その時の気持ちのありように配慮し、本人の思いに沿った暮らしの提供に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に意向等、意見を求めています。月に1度のミーティングで利用者様一人一人の状況報告を職員から求め、実情に沿った介護計画になるよう努力しています。	月1回、ミーティングにてサービスの進捗状況を話し合い、介護計画が実情に即しているか確認している。本人の状態や能力を考慮して課題を捉え、具体的なサービスに繋げたケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の書き方は、誰が読んでも分かりやすい記録になるよう改善しています。職員間で情報が共有できるよう申し送りノートを活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況によって、病院受診等必要な支援は柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人、知人の面会により意欲向上出来ています。保育園児の慰問に目を細め可愛いなと喜ばれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時より、主治医の変更をすることなく診療を受けています。かかりつけ医に職員も相談し助言を受けている。必要に応じ受診の付き添いも行っています。定期的に病状を家族に連絡しています。	本人・家族の希望により、かかりつけ医の受診や往診がある。また、歯科医師の往診もあり、義歯の調整と治療が受けられる。週1回の訪問看護にて、異常の早期発見に努め、適切な医療が受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより、週1回の訪問を受け、日ごろの健康管理や医療面での相談、助言に対応を行って頂いています。異常の早期発見、受診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々の様子や入院に至った情報提供を行い、安心して治療に専念して頂いています。ホームで対応可能な状況等、率直な意見を本人様の為にも行い、ご家族にも理解して頂いております。難しい状況時は主治医に相談し受け入れを決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応はホーム単独では困難な為、地域でのネットワークが肝心であり、体制を整えている。家族の要望とホームの力量・体制を押し量り、誠実な話し合いを行っています。	入居時に重度化や終末期の事業所での対応について家族に説明をしている。家族が希望し、医療行為の必要がなければ看取りは行う。終の棲家として支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルにのっとり研修実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団、近隣住人と救援要請の体制づくりをしています。又、年2回の消防訓練を通し入所者の避難方法をすべての職員が理解しています。	年2回、避難マニュアルに基づき消防訓練を隣の事業所と合同で実施している。地元の消防団や近隣との協力体制を築いている。水やラーメン等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄面では羞恥心に配慮したケアができるよう職員に指導している。プライバシー等が守られるよう尊敬の念をもって対応できるよう、ミーティング等での話し合いを行っています。	生活のリズムや心情を考慮して対応に努めている。入居者の尊厳やプライバシーに関する接遇についてミーティングで話し合い、実践に繋げている。排泄面での配慮を示したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りから、聞かれる言葉を聞きもらさないように注意し自己決定できるようにしています。自己決定できない場合でも、なるべく利用者本位を推測しケアを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人一人の生活パターンやペースを把握し、そこに職員が合わせるように、さりげないケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんが着たいと思われる服を、選んでいただき、季節に合った服装ができ、おしゃれが楽しめるような声かけを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時メニューの希望を聞き取り入れたり、おやつ作りや、食材選びを職員と一緒に、楽しく会話しながら食事ができるようにしています。クリスマス・正月等イベントとしての普段と違う嗜好での料理を食して頂き、雰囲気も一緒に味わっていただいています。	歳時記に沿った献立を作成し、季節感を味わい回想に繋がる食事の工夫をしている。嗜好調査を随時行い、食材選びを一緒にして楽しく食事が出来る支援をしている。事業所の畑では野菜の植え付け、管理、収穫し、食材として楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能の低下等見られキザミ食、粥食の提供、トロミ剤使用しての水分補給、状態にあった形で安心して食べることが楽しめるように、粥食の方にも工夫しちらしずしの提供も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施しています。できる部分は自力で頂き、磨き残しの確認等を職員が行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を目標としている。ホームに入所されてから日中、紙パンツ使用、夜間おしめ使用から日中安心パンツ、夜間ポータブルトイレ使用へと移行できた方が居られます。	トイレでの排泄を基本としている。排泄の向上に努め、オシメ使用からポータブル移行へと自立支援に努めている。水分補給やヨーグルトの補食にて体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一杯の水を飲んで頂く。ヨーグルトを一日一回食して頂く等、腸に働きかける工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しみの一つとしての入浴が位置づけられている。ゆっくりと本人のペースで入浴して頂いています。(ある程度の入浴予定はあります)	本人に入浴の意思を確認して誘導し、ゆっくりと本人の楽しみとなる入浴を目指している。柚子湯や入浴剤を使用して楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に向けての生活リズムを大切にしています。睡眠障害がある方には眠くなるまで、職員と過ごしていただいて、自然な睡魔が訪れるようにケアをすることもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、主治医から新たに処方される薬について説明があり、申し送り、日誌等に記載し職員全員に申し伝わるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	秋にはホームテラスで利用者と職員とで秋刀魚を焼き、役割りをもって参加して頂く事で、喰わず嫌いだった青魚が食べれるようになった利用者の方が居られます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	もみじ狩りに、奥津溪谷へ利用者全員で参加することが出来ました。又利用者全員でショッピングモールのフードコートで外食しました。今後は、家族の協力も得ながら、花見を計画中です。	奥津溪谷へ紅葉狩り、足湯、外食等を伴うドライブに出掛けている。気分転換に外気浴を兼ねて近隣へ散歩に出掛けたり、事業所の畑に出て作業を楽しんでいる。	花見など事業所全体での外出を計画している。家族の協力は必要不可欠となるので、一緒に外出を楽しみ、良い思い出作りとなる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて自分でお金を持ち、希望があれば買い物の為に外出し、自分で支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常に手紙が出せるように、切手、便箋の用意があります。ご家族に時々、電話をかけて来て下さるようお願いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁を飾りたてるのではなく、季節感が感じられる飾りでさりげなく、演出しています。季節ごとの行事も行い話題づくりも工夫しています。	玄関にはチューリップ等の花を活け、リビングにひな壇や作品にて、季節が感じられる工夫をしている。居間の広い窓からは慣れ親しんだ景色が望める様に設計され、落ち着いて居心地良く生活が送れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで過ごす時間が楽しい時間になるように、座る席等の配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンス、お気に入りの椅子等、使い慣れた家具を使っていたら、居心地のいい空間づくりを工夫しています。	居室の入口には名札を掛け、他室と区別している。テレビ・家具・家族写真・自分の作品・カレンダーなどを配置して自分の部屋作りが出来る様配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室全体の様子がホールより、分かり易い作りになっており、歩行器等ベッドすぐ横に置き、いつでも使いやすいようになっている。物音で職員が対応できており、思いのまま、ホール・居室を行き来されています。		